

新年あけましておめでとうございます



# はぐるま

日本共産党  
川崎重工委員会

困ったときはお気軽  
にご相談ください

内容は口外しません

TEL : 341-3235

FAX : 341-3236

メールアドレス  
spum69u9@pony.  
ocn.ne.jp

ご意見や投稿など  
もお寄せください

ホームページ [http :  
//www.jcp-kawajyu.jp/](http://www.jcp-kawajyu.jp/)

携帯サイト [http:  
//www.jcp-kawajyu.jp/i/](http://www.jcp-kawajyu.jp/i/)



## 「安全で健康な職場」の実現に 向けて確かな一歩を!

政府・民主が公約破りの大暴走、「歴史的岐路」に立つ日本政治

昨年は、東日本大震災と原発事故という未曾有の危機が起こりました。引き続き震災復興と「原発ゼロ」のたたかいが大事となっております。

同時に、今年は、日本を丸ごと売り渡すTPP(環太平洋連携協定)問題や沖縄での新基地建設問題、消費税増税と年金支給額の引き下げなどの社会保障問題についての是非が、いよいよ国民的に問われる「歴史的岐路」の年となります。

日本共産党は、米国・財界にいわれるまま、公約破りの大暴走を続ける野田政権と正面から対決し、「国民が主人公」の新しい日本、「原発ゼロの日本」への根本的変革をめざして奮闘します。

労働者のみなさん、職場からも「米国・財界中心」の政治に社会的反撃を起こしていきましょう。

### 2012年 川重「社長年頭挨拶」について

長谷川社長は、年頭挨拶の中で、「働く人々の職場環境の改善」や「ダイバーシティの強化」、「安全を常に第一に考え、災害撲滅」などに取り組んでいくことを表明しています。これらについてはしっかりと実行してもらいたいと思います。

一方で、先進国の景気低迷や円高を理由に、「海外調達比率の拡大や海外の生産拠点を含めたグローバルな生産体制の見直し」が必要と、たいへん気になるとを述べています。

これらがそのまま実行されるならば、川重で働く労働者にとっては、

### 大河

「生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく事が、これからの、わたくしたちの使命です。」  
昨年、気仙沼市立階上中学校の卒業式での答辞です。

この言葉に、被災者だけでなく、全国の無数の人たちが、感動と強く生きる勇気をもたらしたことでしよう。現在も様々な人たちを励まし続けています。

それにしても、中学生が、あの残酷な境遇に投げ出されながらも、なぜこうまで強くなれたのでしょうか。

それは、現実をまず受け止めることから始め、これまで多くの人たちに支えられて現在の地点に立っていることに気づき、困難をともに乗り越えていく仲間を見つけ、そして、社会に自分が役立てる方向を見出したことによるものだと思います。

「歴史的岐路」に立つ2012年の年頭に当たって、あらためてこの答辞が想起されました。

【2頁へ続く】

【1頁より】

働者はもちろん、下請け企業や地域経済に深刻な影響をもたらすこととなります。そして、大企業が競ってこのような道に走るならば、産業空洞化に拍車をかけ、日本経済を雇用破壊と景気悪化の悪循環に突き落とすことになるでしょう。

経済危機のときこそ雇用の創出とディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を

2010年6月のILO 99回総会では、企業は雇用や環境といった社会的側面に配慮してこそ持続可能となり、こうして「持続可能な社会」も可能となるという考え方に立って、経済危機のときこそ、「生産的な雇用とディーセント・ワーク」が必要だと提起しています。

そして、ディーセント・ワークを実現する上で、非正規労働から正規労働への転換と、非正規労働者の非差別・均等待遇が重要であること、また、「人員削減を優先する企業に未来はない」とよく主張していま

す。日本の経済界の常識は、国際社会では非常識となっているのです。

大企業は、厳しい経済環境のときこそ、雇用拡大や地域経済の振興という社会的責任を果たすべきです。

「要求アンケート」への協力、たいへんありがとうございました

昨年末時点で100通を大きく超えるご回答をいただきました。詳細は別途報告させていただきます。アンケート結果には、非人間的な「使い捨て」労働に対する不安・不満や正社員化の要求、サービスマンやセクハラ・パワハラの告発、労働災害や心身障害の不安、年齢差別による賃金カットへの怒りや低賃金による生活の苦しさなどが、数多く訴えられています。一部を紹介します。

「今家族と暮らしているのが、生活出来ているが、本当に一人になったとき今の給与では生活する自信がない、契約期間も6カ月ごとの更新で常に不安である」（神戸・派遣女性）

「残業申請しない理由」解雇もちらつかせる。あるいは自己管理の不備が原因であ

る旨の始末書を書かされる」（明石・正規男性）  
「事務職のサービスマン残業をなくしてください」（西神戸・正規男性）  
「夏場の仕事は、とても暑いうえ、保護マスク・保護作業服で頑張っているのに生活保護受給者と比べて、もらえるお金が月2、3万程度しか変わらないのはおかしい」（兵庫・正規男性）

誰もが人間として尊重され「安全で健康な職場」の実現を

以上のように職場では、誰もが人間として尊重され「安全で健康な職場」の実現が引き続き緊急の課題となっています。私たちは、この実現に向けて確かな一歩の年になるよう奮闘する決意です。労働者のみなさん、正社員・非正規社員が連帯し、ともに力を合わせて取り組んでいきましょう。

最後にみなさんがご家族

ともどもこの二年を健康に過ごされることを祈念して、新年のご挨拶といたします。

（注）ディーセント・ワークの

4つの内容

①人間らしい生活をおくることのできる十分な所得があること

- ② 社会保護によって労働者とその家族が保護されていること
- ③ 労働基本権などの労働者の権利が保障されていること
- ④ ジェンダー平等（男女平等）を実現していること

原発ゼロへ「兵庫の会」結成県民集会が開かれる

「原発をなくし自然エネルギーを推進する12・18兵庫県民集会」に、川重共産党委員会ののぼりを持参して参加してきました。

寒風が吹く中での集会でしたが、約千人が参加しました。福島県浪江町からも被災者が参加していました。福島原発事故で、農地が汚染され作物が作れなかった農家の被災者は、事故を起こした東電と政府に怒りの訴えを行い、また、浪江町から神戸に避難している青年は、「原発に反対してこなかったのは自分たちにも責任がある。自然エネルギーに転換すべきである」と発言していました。実際の体験談を聞き、原発をなくす必要性をあらためて感じました。

“賃金が安くて生活が苦しい”  
（「要求アンケート」中間集計結果より）

	正社員	非正規社員
生活実感 (やや苦しい)+ (かなり苦しい)	30%	62%
生活向上に必要な賃上げ (非正規は1H当たり)	3万円超～ 39%	200円超～ 58%
職場の不安・不満 NO. 1	賃金が安い 38%	賃金が安い 48%

集会の最後に、兵庫労連、日本共産党など8団体を中心となって準備した「原発をなくし自然エネルギーを推進する兵庫の会」の結成を、参加者の拍手で確認しました。

集会後、のぼりや横断幕を掲げて、三宮花時計経由大丸前まで「原発はなくそう」、「自然エネルギーに政策転換しよう」などのシュプレヒコールを行いながら千人でパレードしました。なかなかの壮観でした。

# 労働組合について考えてみましょう(続)

「はぐるま」秋季号では、労働組合とは何か、その基本原則、公的・社会的役割について考えてみました。今回は労働者の団結を阻んでいる問題について考えてみたいと思います。

## ○企業別労働組合の弱点は？

日本では、単位組合の組織のほとんどが企業別で正規従業員だけの労働組合になっています。多くの組合は、会社とのあいだにユニオンシヨプ協定<sup>注</sup>を結んでいるため、労働者は会社の従業員になると、自分の意思とは無関係に自動的に組合員となります。

そのため、労働組合員としての自覚をもたない組合員も生まれます。また、企業ごとの組合組織であるために、「企業あつての労働者」という企業意識に引き込まれやすく、労働者の産業別団結や、産業別統一闘

争によって生活と権利を擁護していくという見地にたてにくくなります。

欧米諸国では、労働組合のほとんどが職業別か産業別の労働組合となっています。

## ○特定政党支持路線と労資協調主義路線の重大な弱点は？

特定政党支持路線は、思想・信条の違いをこえて一致する要求実現のために団結すべき労働運動のあり方をゆがめています。政党支持の自由という憲法に保障された基本的人権を侵害するとともに、労働組合が、ナショナルセンター(労働組合の全国的中央組織のことで、全労連、連合があります)の違いをこえて、一致する要求で共同を広げるうえでも、重大な障害となっています。

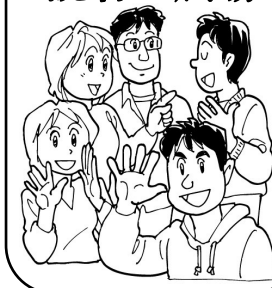
また、労資協調主義路線は、財界・大企業の賃下げ攻撃や、「派遣切り」などの大量の首切り攻撃に対しても、正面からたたかう姿勢に立ちきれません。

この二つの重大な弱点を克服し、失業者の支援、雇用の維持と確保、非正規雇用の正社員化、すべての労働者の賃上げ、長時間過密労働の是正など、労働者の切実な要求を正面から掲げ、ナショナルセンターの違いをこえた共同のたたかいに踏み出すことが、強くのぞまれています。

(注)労働組合への加入が義務付けられ、採用後に加入しない、あるいは組合から脱退、除名された場合、使用者は労働者を解雇する義務を負う、という制度。



## 読者の広場



### 「三菱重工に商船建造の継続を求め」集会に参加しました

12月21日、三菱神戸の門前にある和田宮公園で18時から「商船継続を求め」る集会が開かれました。足下が冷えるなか、重工労組、三菱革新懇談会、地域商工会、五名の共産党神戸市会議員ら、百人近くが集まりました。

集会は、「神戸に帰りたい」という詩の朗読、地元の方の挨拶、経過報告、市会報告、電気ユニオンの特別報告、集会決議が行われました。

最後に、三菱重工に向かって、「三菱神戸造船所は商船を建造せよ」「労働者と下請けの雇用を守れ」「地域社会をもっと考えよ」とシュプレヒコールをしました。

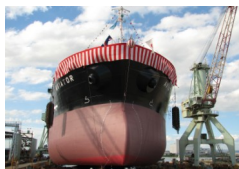
一昨年7月、三菱重工は、2年後に、神戸造船所の商船建造部門を長崎・下関造船所に集約し、潜水艦建造と原子力部門を強化すると発表しました。商船建造は、一隻の進水を残すのみとなりました。

神戸港には、造船所が無くしてはならない存在です。造船産業はすそ野が広く雇用と地域経済を支える重要な産業です。神戸市に二度にわたり要請し、地元商店街や地域住民なども陳情や署名運動などに立ちあがっています。

福島原発事故で、原発依存からの脱却が大きな流れとなり、産業構造が変わろうとしています。原油価格高騰やエネルギー政策の転換でLNG船の需要が2015年以降百隻発生の見込みという新聞報道もあります。

三菱重工は、神戸での商船建造撤退を取り消し、労働者・下請け・地域の雇用を守る社会的責任があるので、はないでしょうか。

(神戸・H)



### 工場避難訓練について

東南海大地震が高い確率で30年以内に起きるといわれています。

昨年の東日本大地震の津波は想像を絶する災害をもたらしましたが、津波に対する訓練をしていた地域では、全員助かったとの報道がされていたと思います。

昨年の神戸工場避難訓練は、私自身もそうですが、せっかくの訓練なのに真剣さに欠けていたと思います。多分、大地震が起きたあとの設定なのに被害もな

く、津波に対しての避難訓練だけをするといった不自然さもあってのことかと思えます。次回の訓練では、より効果的で実効性のある訓練をするよう会社に提案してほしいと思います。

(神戸・S)

### こんな避難訓練で大丈夫？

全員に配布されている「災害時の緊急袋」のヘルメットは、いつ使うのでしょうか？ 避難訓練時でさえ使用されていません。避難訓練に参加する人は、職場

の代表数名で、他の人は普段通りの仕事をしています。いざというとき、どうしたらよいか説明もありません。エレベータは、災害時には止まり、階段しか使えないのに、全員が階段で降りたときのシュミレーションはありません。電気が使えないとき、ドアがロックされていないのでしょうか。消防車のはしご車の届かない18階以上で働く私たちは、どう避難するのか心配です。

(本社・K)



### 労災の「統括内」、「統括外」なんで？

災害の扱いに「統括内」、「統括外」の二つがあることを最近知りました。

「統括内」は川重、川重子会社従業員と構内協力従業員(派遣労働者)、「統括外」は請負労働者で区分けされ、「統括外」は会社の災害統計にカウントされません。仲間外れなのです。工場内のビルとか建てや建設の請負であれば空間的、管理的に別で仲間意識もなく「統括外」かなと思うのですが、同じ職場であいさ

つ、会話をしながら仕事をしている顔見知りの仲間の災害が「統括外」?? 日常的に仲間のなのに、災害の時だけ「統括外」と仲間外れにすることに違和感を感じます。

こんな度量の狭い対応で本当に災害を無くすことが出来るのでしょうか?? 請負労働者の災害も含めたもつと度量の大きな対応をお願いしたいです。

(播磨・H)



### 最近のニュースから

#### 世界経済危機一過剰生産が貧困と格差招く

欧州の財政危機が世界を揺るがせています。EU各国を巻き込んで政治もきしみ、資本主義の矛盾が噴き出しているようにみえます。まさに資本主義という体制の存続の是非が問われている事態です。

リーマン・ショック以降の世界経済危機を金融危機と見る向きが強いようですが、金融危機と過剰生産恐慌の結合と見るべきです。先進国の対応は金融的な対処、銀行の救済が中心でした。銀行は助かったが、実態経済への手だてなく、貧困と格差が世界中に広がりました。

ニューヨーク・ウォール街で起きている「1%が支配する社会でいいのか」「私達は99%」と訴える行動は、この矛盾が噴き出したものです。

#### マルクスへの注目の世界的ひろがり

ジョージ・マグナス氏(米国の金融界の大御所)が、米国の経済通信社・ブルームバークに寄稿した論評が反響をよんでいます。「現在の世界の危機の本質を知りたければ、カール・マルクスを読め」と言い、マルクスが「資本論」で語っている次の言葉「一つの極における富の蓄積は、同時にその対極における貧困の蓄積である」「すべての現実の恐慌の根拠は、一方では大衆の貧困、他方では生産力の無制限の発展を求める衝動である」に注目しています。

さらに彼は、「世界経済危機をいかに理解するか苦勞している政治家は・・・マルクスの著作を勉強するのが賢明だ」とのべ、資本論を引用しながら、今日の危機の根源に「過剰生産と過少消費との矛盾」があると指摘し、この危機にどう対処するかについて「マルクスの精神を現実生かすために」は、雇用、所得、総需要を延ばすことが必要だと提起しています。

世界の資本主義体制を支えてきた支配層のなかからも、今日の経済危機を理解し、対処しようとするれば、マルクスの理論に依拠することが必要だという声が多くあがっていることは重要です。

### 震災募金 受けつけています

#### 郵便振替

【口座番号】00170-9-140321

【加入者名】日本共産党災害募金係

通信欄に「震災募金」と記してください。なお、手数料はご負担をお願いします。